

	公表	事業所における自己評価総括表
--	----	----------------

○事業所名	こどもサポート教室「クラ・ゼミ」北上上野町校		
○保護者評価実施期間	2024年11月1日		～ 2024年11月30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 30	(回答者数)	16
○従業者評価実施期間	2024年11月1日		～ 2024年11月15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数) 5	(回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	2024年12月16日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	楽しみにしてくれている利用者が多いこと	楽しい気持ちでまた来たいと思ってもらえるような支援内容を取り入れながら、保護者様も利用者も満足できるようやり取りを大切にしている。	不満に思う機会を少なくするためにも、時間での区切りや入れ替え時間のスムーズさを改善していく。
2	相談員や保護者様との情報共有ができています	相談員や保護者様との対話を大切に、どんな小さな話でも話せるよう時間や機会を大事にしている。	引き続き、相談員や保護者様と話す機会を設け、その時間を大切にしながら、やり取りを多く行い、綿密に関係性を構築していく。
3	利用者のしたいことにできる限りで応え、楽しいことから得意なことを伸ばし、苦手なことを補えるように支援している	利用者の意見をしっかり聞いてできる限り対応をしていく。また、支援中には準備が難しいものがある場合は次回準備することを約束し、職員間でも話し合い行っていた。	利用者の意見を大事にしながらやりたいことや、興味のあるものなどから、いろいろな活動ができるようにしていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	支援前後に職員間での打ち合わせ、支援の振り返り等を行う場を作る。	支援がない時間があまりないことやそれぞれの職員が支援準備、他作業に追われている。作業一つ一つを簡素化させながら必要な業務とそうでない業務の取捨選択をして、業務負担を減らし、ミーティングや話し合う時間を作っていく。	支援がない時間があまりないが、常に翌日の状況も把握しながら、何時にミーティングをするかを事前に決める。また、ミーティング内容を明確化し、短時間でも必要なことを伝えあえるようにしていく。
2	ヒヤリハット等事業所内で起きた事項について再発防止に向けた対策を全職員で検討する必要がある。	ヒヤリハットや事故などの判断基準がそれぞれ異なり、個室での支援となるので、それぞれの職員が、報告の必要なしと感じた事象については話し合う機会を設けることができない。	ヒヤリハットや事故は起きないに越したことはないが、起きてしまっても隠すことなく、周知徹底し全員が把握できるように書類作成とミーティングでの報告を徹底する。また、個室での1対1の支援を減らし、他者の目を常に感じられるよう支援等にも変化をさせていく。
3	保護者様間での交流(ファミカフェや親子イベント)する機会がない。	運営安定のための契約や個別定期の確保を優先に行ってきた。	ファミカフェの実施や親子イベント企画、校舎外に出るイベントなどを来年度は積極的に行いながら、保護者様同士の交流する場を設けていきたい。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	こどもサポート教室「クラ・ゼミ」北上上野町校
------	------------------------

公表日 2025年 2月 15日

利用児童数 2024年12月1日 30名

回収数 16

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応	
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	15	1			・軽い運動もできるくらいのスペースがしっかりある	活動内容や一人一人の活動量に応じてペースを区切ったり、一部屋を使ったりと臨機応変に対応したいと考えています。	
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	15			1		職員紹介の用紙を玄関に貼っています。異動や退職など人事での変更があった際には口頭でも周知していきます。	
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	13	2		1		玄関やトイレ、手洗い場などイラストや矢印のしを使ってわかりやすい掲示を目指します。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	13	3				日々清掃を行っておりますが、行き届かない部分のないよう、より一層気を付けていきます。	
適切 な 支 援 の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	16				・一人一人をしっかり状況を見て、毎回夢中になる教材で支援している ・利用者の特性をよく見てそれに合わせて接してくれている。親として安心。	一人一人のニーズに合わせた支援が今後もできるよう職員一丸となって話し合いながら進めていきます。	
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	16						
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	15				1	・長所を伸ばそうとされているのを感じるの为本当にありがたい	一人一人のニーズに合わせた支援計画作成を目指し、モニタリングを大切にしていきたいと思います。
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	15				1		わかりやすく説明ができるよう具体例などを加えた支援内容にしていきたいと考えます。
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	16					・支援計画の目当てに沿った支援をしていただいている	一人一人のニーズに合わせた支援が今後もできるよう職員一丸となって話し合いながら進めていきます。
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	14	1		1			
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	6	2	2	6		・ほかの施設との交流は不明 ・こども園に通っているため必要を感じない ・集団活動で交流をさせていただくと成長を感じることができる	保育所等とのイベントは難しいですが、同時間を利用している利用者での交流や集団活動を増やしていきたいと考えます。
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	16						
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	16					・一つ一つ丁寧に説明してもらっている	引き続き、丁寧を心がけながら、共通認識のもと支援や計画を組み立てられるようにしていきたいと考えます。
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	11	1			4	・まだその機会がないので不明	今後ファミカフェなどの開催、外部保護者様向けイベントなども積極的に考えていきたいと思ひます。
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	16					・毎回今のこどもの成長、好きなこと、できることを共有できている	
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	14	2					計画更新のためのモニタリングのほか、お声がけさせていただき、相談などが気軽にできるよう努めていきたいと思ひます。
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	16						
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	6	2	1	7		・兄弟で同じ教室でイベントに参加している ・保護者同士の交流(情報)があるといい	今後ファミカフェなどの開催、外部保護者様向けイベントなども積極的に考えていきたいと思ひます。
	19 こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	16						

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	16					
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	15	1				SNSなどを活用しながら、お知らせをしたり、周知できるようにしていきます。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	16					
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	14			2		今後利用者も交えた避難訓練や防災学習などを取り入れていきます。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	14			2	・避難訓練や避難場所の確認を行った	今後利用者も交えた避難訓練や防災学習などを取り入れていきます。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	15			1		安全に十分に配慮し、安全性を伝えながら安心して通所できるよう周知徹底していきます。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	14			2		事故等が起きないよう細心の注意をしていますが、起きたときには保護者様への連絡、その他必要な各所への連絡を速やかに行っています。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	16				・親の都合で週1にしているが、子はもっと行きたいと言っている ・どの職員にも安心感をもって過ごせている	引き続き、もっと行きたいと思ってもらえるよう職員一同取り組んでまいりたいと思います。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	16				・毎週通うことをとても楽しみにしている ・ウキウキして家を出発している	引き続き、もっと行きたいと思ってもらえるよう職員一同取り組んでまいりたいと思います。
	29	事業所の支援に満足していますか。	16				・毎回来てよかったなと思うくらい親子とも満足している	引き続き、もっと行きたいと思ってもらえるよう職員一同取り組んでまいりたいと思います。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名 こどもサポート教室「クラ・ゼミ」北上上野町校

公表日 2025年 2月 15日

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5			
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。		5	利用の希望をできる限り断らないように一人当たりの支援数が多くなっても対応してきた。一人一人が、精一杯やってくることができたと思う。	職員の異動などについて直前に知らされ、次月の利用調整を終えてからの周知となり、利用人数と職員状況がギリギリの状態となってしまった日がある。職員配置について事前に周知をいただくよう会社に求めつつ、常に利用者と職員のバランスを考慮し予約枠の確保を進めていく。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5			
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5			
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5			
業務改善	6 業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	5			
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5			
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5			
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	5			
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5			
適切な支援の提	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5			
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	5			
	13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5			
	14 児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5			
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5			
	16 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	4	1	本人支援に重点を置き、個別支援計画を作成し支援をしてきた。まずは本人支援を行うことで、本人を知り、本人が生活する中で楽しく過ごせるように考えてきた。	今後は、本人支援も重視しながら、家族支援、小学校入学を見据えた集団への移行支援なども重視し行っていきたいと思う。
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4	1	それぞれが得意分野を生かし、個々でプログラムを作成するため、チームとして立案はあまりしていないが、継続的にやりたいと思うものや次来た時にやりたいと言ってくれたものに関しては職員間でも話し合い、次担当にも伝えるようにしている。	プログラムや様子についてはミーティングなどで直接話すことを重視し、感じたこと、利用者の状態などは常に職員間で共有できるよう努めていく。

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5			
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	5			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	2	3	始業と同時に支援が入っていることが多くあるため、支援が入っていない時間を見つけてのミーティングはできる限り行うようにしている。	支援内容などは個々に考え行っているため、必要に応じて内容共有をしていく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。		5		19時終業とともに支援を終了するため、話す時間は作れていない。今後は11時または13時など利用者が少ない時間をミーティングとしてできる限り決まった時間で話し合いができる場を設けていく
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5			
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5			
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5			
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5			
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	3	2		保護者様の希望によってではあるが、保護者様に寄り添い、学校に出向くこともできることを周知していく。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	3	2		児童発達支援センターとのやり取りの中で、心理士相談会を行うことができた。今後も児童発達支援センターとの連携を密にとり、併用している利用児に関してや、併用しない利用者についても相談できる距離感でいられるようやりとりをしていきたい。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	3	2		行事案内や利用者の様子を伝えるために職員間が行き来することはあるが、利用者を交えての交流する機会を設けることは、今後話し合いが必要である。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5			
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	2		ペアレントトレーニング等ができる職員の育成及び外部イベントの情報等の入手に力を入れていきたい。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5			
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5			

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	5			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5			
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	4	1		ファミカフェなどの機会を設け、保護者間のつながりを作る場の提供を視野に入れていく。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5			
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5			
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5			
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	3	2		今後は外に出るイベントなども考えながら、地域との関わりを深めていきたい。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5			
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5			
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5			
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5			
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5			
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5			
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4	1		ヒヤリハットが起きないようにしながらも、起きた際には再発防止に向けてしっかりと話し合う時間を設けていきたい。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5			
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	5				